



「地域学校協働活動だより」は枕崎市のホームページにも掲載されています。スマホで読み取ったりパソコンで検索して、カラー写真付きの記事をご覧ください。

～5年振りに「立神正月相撲」を開催 江戸時代からの伝統行事～ 立神校区

小学生、中学生、高校生、一般まで約80人の力士が熱戦を繰り広げました。

コロナ禍で中止が続いていましたが、立神校区の皆さんの努力により、5年振りに再開されました。昔は枕崎地区、桜山地区でも正月相撲が行われていましたが、現在は立神地区だけがその伝統を今に伝えています。

今回から女子の部が設けられ、小中学生の女子も参加して取組を行い、団体戦では男子対女子の対戦も見られました。



今回から女子の部も開催

餅つきや赤ちゃん土俵入りも行われ、会場は大勢の地域の人たちで終日賑わい、笑顔に包まれていました。子供からお年寄りまで一同に会することができるのも、子ども会、育成会、壮年会、老人会と、地域の方々の協力により伝統行事が守られているおかげです。地域の皆さんに感謝いたします。

江戸時代から続く正月の伝統行事「立神正月相撲」が、1月3日に駒場公園で開催され、小



寒い中での熱戦を展開

～「味覚の授業」で 味覚を意識して 食の楽しみを学ぶ～ 桜山小学校

桜山小学校では、12月17日に「味覚の一週間」実行委員会の的場真美さん（的場水産）と西山麻美子さん（事務局）を講師にお招きして、5年生21人を対象に「味覚の授業」を行いました。

「味覚の授業」は、フランスで行われている食育活動「味覚の一週間」の日本版で、全国で200以上の小学校で実施されているそうです。

県内で唯一実施している桜山小では、味の基本となる「塩味」「酸味」「苦味」「甘味」に加え、第5の味覚である「うまみ」について、福山の酢や坊津の塩など、鹿児島食材を味見しながら学びました。



「ウソ！」というほど鰹節を投入

また、枕崎の鰹節を自分たちで削って食べたり、鰹節と昆布で出汁（だし）をとってすまし汁を作ったりしました。とても美味しく、多くの子供たちがおかわりをして、班ごとに作ったすまし汁の味の違いを楽しんでいました。

味覚の授業を通して「味わって食べる」を意識することができ、うまみを生み出す鰹節の日本一の生産地である枕崎の良さ、素晴らしさを再認識した一日となりました。



「五感」と「五味」について説明するの的場さん

～子供たちが子火を持って大人につなぐ～ 田布川集落 鬼火焚き

金山地区の田布川集落では1月5日に毎年恒例の「鬼火焚き」が行われ、安寧と無病息災を願う大きな炎が燃え上がりました。鬼火焚きとは、竹で組まれたやぐらとともに正月飾りを焼いて、正月飾りについてきた悪霊（鬼）を追い払う鹿児島県の伝統行事です。以前は県内で正月の七日に行われ、鬼



子火を持って練り歩く子供たち



燃え盛る鬼火焚きをバックに演じる「枕崎舞炎鯉」と「火の神乙女太鼓 爽」

火焚きの残り火で餅を焼いて健康を祈願していたとのこと。

田布川集落内の田んぼに鬼火焚きのやぐらが組み立てられ、やぐらに囲まれたあぜ道には数百個の杉トーチがともされました。トーチの間を子供たちが子火のたいまつを持って田んぼのあぜ道を練り歩き、やぐらの前で待ち構える大人たちに子火を受け渡す大役を務めました。その後、大人たちの親火でやぐらに火を付け、鬼火焚きの炎が勢い良く燃え上がりました。

燃え盛る炎をバックに「火の神乙女太鼓 爽」の太鼓演奏と「枕崎舞炎鯉」のよさこいが披露され、大勢の観衆を楽しませました。炎と競うように花火も上がり、大きな歓声が上がっていました。

別府校区の年末の伝統行事となっている「そまんずし作り」が、12月21日に別府地区公民館で行われました。当日は好天に恵まれ、小学生、中学生、育成会、高齢者など、世代をこえて約150人の参加がありました。

「そまんずし」とは、そば（そま）の入った雑炊（ずし）のような料理のことです。別府校区では昔からそばの栽培が盛んで、どの家庭でも作られていました。



みんなで美味しく「いただきます～」

地域子ども会ごとに分かれて、高齢者や育成者に指導してもらい、小学生はそばを打ち、中学生は野菜を切って作っていきます。切った食材とそばを3つの大鍋で煮込み、みそ、しょうゆで味付けすると、さば節の香りがするやさしい味わいになりました。大鍋から地域ごとに小鍋に分けて、寒い中で食べる「そまんずし」は温かく、味付けもばっちり。心も体もほかほかと温まりました。三世代が楽しく交流できた、とても素敵な行事でした。



小学生が本格的にそば打ち

～青少年講座で新春の書き初め～ 枕崎地区公民館

枕崎地区公民館の青少年講座「書き初め」が、1月5日に中山香一郎さんの指導で枕崎地区公民館で行われ、枕崎小の児童5人が参加して今年目標などを毛筆で書き上げました。

子供たちには前もって書き初めで書く言葉を考えてもらい、当日中山さんが言葉と名前の手本を書いて、手を取りながら毛筆で文字を書く指導を行いました。

まだ学校で書道を習っていない小学2年生の児童もいましたが、「新春」「元気」「親友」「初恋」「天下布武」と、5人それぞれ毛筆で書く文字を練習し、満足のいく作品を書き上げていました。参加した子供たちは、楽しく書道に取り組めた様子で、あっという間の書き初めの時間でした。



朱墨で作品を添削する中山さん